

立志会会派視察

小林昭式

令和1年7月22日 青森県八戸市「みろく横丁」
令和1年7月23日 岩手県盛岡市「オガール紫波町」
令和1年7月24日 参議院議員会館

環境対応型八戸屋台村

事業に至った経緯について

平成14年11月9日八戸屋台村「みろく横丁」がオープン。地域特性を重視した地域都市におけるまちづくりの研究「環境対応型まちづくり構想プロジェクト」、食材を活かしたオーガニック商品八戸オリジナルメニューの開発、食材だけでなく施設、食材だけではなく施設、食器、椅子、テーブルも含めた、食べる環境プロジェクトトータルの開発として考えた「食文化の環境プロジェクト」2つのプロジェクトが考え出した「環境対応型 屋台村構想」である。20世紀の大量生産、大量消費、大量廃棄も終わり、21世紀は地球環境を考え人間性の共存、ゆとり、安全が求められる時代。「屋台」とは、商業の歴史の中で1番はじめのかた。低資本・低コストで行なうことが出来、現在失われつつある人と人とのコミュニケーションの原点でもある。

八戸屋台村コンセプト

- 1、新幹線八戸駅開業において、お客様へのおもてなしの目玉として。
 - 2、中心商店街活性化。
 - 3、日本初の環境対応型「屋台村」。エコステーションの設置
(閉店後生ゴミを生ごみ処理機に入れ、農家に届け肥料として利用)
 - 4、八戸の情報発信基地として。観光地・イベント・飲食店等の紹介、視察のもてなし。
 - 5、若手起業家を育てる。
 - 6、全国に誇る八戸のオーガニック食材の提供と新名物料理・郷土料理を一堂に集め紹介をしたい。
 - 7、スローフード(食べ物の質と安全性と経済に立脚した、人と人、人と自然の関係性を追求する運動)時代への幕開けとして。
- 昼はサラリーマンや主婦が集まるフードコートスタイルの屋台。夜は仕事の疲れを癒す人たちが集まる居酒屋街、時間帯による広場の展開を考える。人々の

流れを郊外から戻し、老若男女市民の皆さんに出店者と共に満足する広場を創り出していく。

所感

平成8年4月市民の方に環境問題の交流の場として、日本初のリサイクル資料館・食の文化資料館「包」パオ開館。

平成9年4月から施工された容器包装リサイクル法を機に、9月には八戸リサイクル協議会設立。地域でゴミを資源化して市場に戻す「地域循環型」のリサイクルシステムの構築を目指している。中居雅博氏は大学卒業後、日本マクドナルド（株）入社。銀座1号店の経験もあり。退社し家業の食品容器（株）に入社平成3年社長就任後、リサイクルシステム構築を確立、小、中、高高生への環境問題の発信基地として活動。平成14年（有）北のグルメ都市設立し、環境対応型「八戸屋台村みろく横丁」を建築。中居社長は市からの補助金は断った、補助が出ると思ったら身が入らない。投資総額は5000万円。1対8の法則。店主1人に客8人がコミュニケーションの最大取りやすい方式。破って作れば、居酒屋になってしまう。8人しか座れないから向かいでも対面でも年代を超えていろんな話が自由にできる場所を提供している。居酒屋やレストランで見ず知らずの人に声掛けて仲良しになるのはまず不可能。成功する条件は多々あるがノウハウを持った人が出店者を育てリーダーシップでまとめていくといい。

岩手県紫波町「オガールプロジェクト」

事業に至った経緯

JR 紫波中央駅前の10.7haを中心とした都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を聞き。

平成21年3月議会の議決を経て紫波町公民連携計画を策定。紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）が始まっている。

理念 都市と農村の暮らしを「ゆしみ」、環境や景観に配慮したまちづくりを表現する場にする

目的 「町民の資産」である町有地を活用して、財政負担を最小限に抑えながら公共施設整備と民間施設等立地による経済開発の複合開発を行な

うこと

- ◆町民の財産である町有地を安売りしない
- ◆まちづくりは「人」でなく「不動産」付加価値をつければ価値そのものを増大させられる。不動産の価値の向上

方針 町の特色を生かし、人に優しい統一感のある景観で住みよい町にする

施設の概要

- ◆オガール広場 東広場 H24. 8 ・西広場 H25. 5 完成
- ◆オガール大通公園 H26. 7 完成 所有：紫波町 手法：公共事業
- ◆役場庁舎 H27. 5 開庁 事業主体：紫波町 手法：PFI 特徴：町産材活用
- ◆オガールタウン H25. 10 分譲開始 土地・分譲：紫波町（売建て） 手法：紫波町が 57 戸を分譲 特徴：町産材活用、指定事業者が建設紫波型エコハウス基準
- ◆オガールベース H26, 7 オープン 建物：オガールベース（株） 手法：民間事業、土地賃貸 特徴：民間複合施設、木造建築
- ◆オガールプラザ H24, 6 オープン 建物：オガールプラザ（株） 手法：民間棟の土地賃貸 特徴：民間複合施設、木造建築
- ◆オガールセンター H29, 4 オープン 建物：オガールセンター（株） 手法：民間複合施設、土地賃貸
- ◆オガール保育園 H29, 4 開所 建物：社会福祉法人、共助会 手法：民間民営、土地賃貸 特徴：木造建築
- ◆エネルギーステーション H26, 6 事業開始 建物：紫波グリーンエネルギー（株）
- ◆岩手県フットボールセンター H23, 4 開場 事業主体：（公社）岩手県サッカー協会 施設：サッカー場、クラブハウス、地下に雨水貯留施設

オガールプロジェクトにおいて「オガールプラザ」は中核の施設。紫波町の情報交流館図書館＋地域交流センター、子育て支援センター、民営の産直販売所、カフェ、居酒屋、医院、学習塾等で構成される官民複合施設。入居テナントはほぼ県内事業者、資金融資は東北銀行から受けている。建築部材は県産材使用、地元工務店が施工に携わった。地産地消のプロジェクト。

所感

少子高齢化や人口減少社会が進行していく今、補助金に頼らない公民連携に

より地域活性化を進めた紫波町。10年以上放置されていた町有地10,7haをPPP（公民連携）手法で整備。（株）オガール紫波設立。役所内組織を横串に通して動く公民連携室も立ち上げ。オガール紫波と連携しながら町役場のスピーディーな意思決定を進めている。「補助金に頼らない」実際には町が買い取った公共施設部分ではまちづくり交付金（社会資本整備総合交付金）2億7700万円の交付金を受けている。商業部分、オガールプラザが保有する部分は補助金を入れていない。当市のまちづくりにおいて市民が使いやすい公共施設を作るばあい市内在住者だけでなく交流のできる場・賑わいの場を創り出し整備していく。資金は民間が都合し、行政の組織・体制が手法をだし民間主導していったらいいのではないか。

国の施策、制度に関する要望書

参議院議員 酒井庸行 様

参議院議員 藤川政人 様

補助金交付関係

第1 小中学校施設について、老朽化した学校施設の長寿命化や、児童生徒が安心して学校生活を送るための教育環境の整備など、様々な課題に対応するため、本市においては計画的な改修、整備を促進している。

市内の学校施設の大規模改修工事（老朽）及び長寿命化改良工事を継続的に、且つ、年度当初から計画通りに事業着手するため、国においては、安定的な予算枠を確保し、学校施設環境改善交付金の交付を行うこと。

第2 社会資本整備総合交付金や各種国からの補助金などについて、都市自治体の事務執行に支障が生じることのないよう補助率、補助単価等を実態に即して改善し、必要額を確保するとともに、事務手続きの簡素合理化、早期示等に努めること。

外国児童生徒への教育関係

第3 外国児童生徒等の急速な増加により学校の教育体制は限界にきており、現状に応じた再構築が必要となっている。ついては、日本語初期指導教室の制度化を実現するとともに、日本語指導担当教員の定数加配措置のさらなる充実を図ること。

参議院議員 宮本周司 様

第1 地域中小企業の基盤が未来に向けて円滑に機能するため、事業承継に取り組む中小企業、小規模事業者への事業承継補助金制度や税制改正などの支援策を拡充すること。人材確保するため

第2 小規模事業者が人材を確保するために、小規模事業者ならではの魅力を発信する取り組みへの支援や、女性、高齢者が活躍できる職場環境の整備等生産性の向上を図るための支援策を充実させること。

◆文部科学省総合教育政策局

外国人児童生徒等教育の現状と課題

★ 共生社会の実現に向けた帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援

日本語指導が必要な児童生徒に対する支援体制を充実させることにより、こうした児童生徒が自立できる力を育成するなど共生社会の実現に向けた外国人児童生徒等の教育の充実を図る。

【指導・支援体制整備】

1、日本語の指導を含むきめ細かな支援の充実。 補助対象：65 都道府県・指定都市・中核市 補助率：1/3 この対象のなかに愛知県もあり知立市を含んでいるとの説明あり。

2、他言語翻訳システム等 ICT を活用した支援の充実。外国人児童生徒や保護者とのスムーズな意思疎通を図りきめ細かな就学相談や充実した日本語の指導を実施するため、取組にたいする支援を行う。

所感

当市の現状からすると支援体制の整備は大変重要なものである。